

クラブチーム及び小学校団体対象

All Star Dance

ルールブック

1.0版 2018.10.04作成

1.1版 2019.05.10作成

1.1.1版 2019.06.14作成

1.2版 2019.10.24作成

1.3版 2021.04.30作成

1.4版 2022.04.25作成

1.4.1版 2022.10.14作成

1.5版 2023.5.20作成

【対象大会】

USA Japan All Star Challenge Competition（夏の大会）

USA Regionals（地区大会）

USA Nationals（全国選手権大会）





目 次

P.2 ルールブックについて

P.3～6 競技規定

P.7～11 演技規定

■Mini/Youth/Mix編成

P.8 Pom Prep部門

P.9 Pom部門・Hip Hop部門・Jazz部門・Spiritleading部門

■Junior/Senior/Open編成

P.10 Pom Prep部門

P.11 Pom部門・Hip Hop部門・Jazz部門・
Contemporary/Lyrical部門・Spiritleading部門

P.12～13 審査対象外部部門

■ Half-Time USA

■ Show-Time USA

赤字：1.4.1版からの変更・追加

ルールブックについて

- 1) これは、クラブチーム及び小学校団体対象ダンス（AD）ルールブックです
- 2) 該当の大会及び更新時期は下記の通り

該 当 大 会	更新時期(目安)
USA Japan All Star Challenge Competition（夏の大会）	毎年5月～6月頃予定
USA Regionals（地区大会）	毎年9月～10月頃予定
USA All Star Nationals（全国選手権大会）	
USA The Peak（選抜クラブチーム大会）	

※各大会シーズンの前にルールブックの更新をする予定ですので、出場の際は必ずご確認ください

※更新時期はあくまでも目安となり、1度更新された後も、変更・追記される場合がある

更新・変更・追記に関してはWebサイトにてご案内します

- 3) 各大会の詳細に関しては、必ず開催要項をご確認すること



競技規定

全部門共通競技規定はなし

競技規定

【部門定義】

実施される編成/部門/難度/人数区分、及びチームの構成人数は、大会要項をご確認ください

部 門	部門の特徴	実 施 編 成					
		Mini	Youth	Junior	Senior	Open	※Mix
Pom部門	演技には、シャープ・クリーン・かつ正確なポンモーションテクニックを取り入れること。 グループの実施には、同調性、均一性、位置間隔が重要である。 演技の振付には、以下ダイナミックな効果（音楽性、流れるような創造的な移動による視角効果の演出、高低差、グループワーク、動きやスキルの複雑さ）が重要である。 演技全体を通して、ポンを使用することが求められる。 ユニフォーム/コスチュームは、カテゴリースタイルを反映したものでなければならない。 ※演技全体を通してPomの使用が認められない場合 【違反】3点減点	●	●	●	●	●	●
Hip Hop部門	演技には、グループ感とスタイルを含む、本格的なストリートスタイルの動きを取り入れること。 グループの実施には、同調性、均一性、位置間隔が重要である。 演技の振付には、以下ダイナミックな効果（音楽性、流れるような創造的な移動による視角効果の演出、高低差、グループワーク、動きやスキルの複雑さ）が重要である。 衣装やアクセサリーは、ヒップホップカルチャーを反映した特徴的なものであること。	●	●	●	●	●	●
Jazz部門	演技には、トラディショナルまたはスタイルのあるダイナミックな動き、強さ、連続性、存在感、正確なテクニックを取り入れること。 グループの実施には、同調性、均一性、位置間隔が重要である。 演技の振付には、以下ダイナミックな効果（音楽性、移動、動きやスキルの複雑さ）が重要である。 演技全体の印象は、音楽性を活かすため動きのダイナミックさに変化をつけることを理解した上で、生き生きとエネルギーで感動を起こさせるものであること。 ユニフォーム/コスチュームは、カテゴリースタイルを反映したものとす。	●	●	●	●	●	●
Contemporary/ Lyrical部門	音楽のリリックやリズムの特徴を大切にし、モダンやバレエの表現を用いて構成される内容。動きのコントロール、表現力、身体のコントラクションとリリース、チームの統一性が求められる。	-	-	-	●	●	-
Spiritleading部門	ハーフタイムのようにショーアップされた、スポーツエンターテインメント性のある内容が求められる。	●	●	●	●	●	
Pom Prep部門 ※夏の大会のみ実施	技術の習得段階にあるチームに向けた、ダンステクニック・スキルの実施制限を設けたPom部門。	●	●	●	-	-	●

- 1) All Star Danceの部門には難度別の適用はありませんが、夏の大会のみ実施されるPom Prep部門には、「ダンステクニック・スキルの実施制限」が設けられている
出場の際は、演技規定を確認し演技内容に注意すること

1. 演技内容/スポーツマンシップ

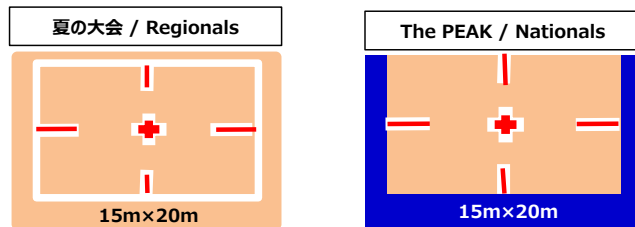
- 1) 全ての振り付け・音楽・衣装は年齢相応であること 【違反】3点減点
- 2) 下記の内容に該当する、構成や振付は禁止とする 【違反】3点減点
- ① 振り付けにおいて紛争や抗争をイメージさせる内容
- ② 人を威嚇するジェスチャー
- ③ 不快感を与える演出やメイクアップ
- 3) 全てのチーム/参加者は、イベントを通してスポーツマンシップに則って行動すること 【違反】失格
- 各チームのチーム責任者は、各選手、保護者およびその他の関係者がしかるべく行動するよう監督すること

2. 音楽

- 1) 曲の歌詞は、全ての観客が聞くに相応しいものであること
大会当日、主催者に使用楽曲の歌詞内容に関して確認があった際は、歌詞内容を確認出来る資料の提出が求められる場合がある（原文、外国語の場合は和訳も含める）
【違反】3点減点
- 2) 違法なダウンロードによる曲の使用不可
【違反】3点減点

3. 演技フロア

- 1) 奥行15m×幅20mとする（フロアの仕様については、下記図参照）
演技フロアの外に踏み出すことによる減点はない
【夏の大会 / Regionals】フロア枠（白枠）と右図のような白、赤のラインを引く
【The PEAK / Nationals】フロアはベージュのスポーツコート内とし、右図のような白、赤のラインを引く
【映像審査】安全な場所で実施すること。フロア/センターのラインテープなどは必須ではない



- 2) 床の素材：原則、各体育館の床（The PEAK/Nationalsに限りスポーツコートを導入）
- 3) 演技に無関係なアイテムの演技フロアへの持ち込みは禁止
※Spiritleading部門のフロア置き道具などは除く 【例】チームのぬいぐるみ、手具として使用しない小道具など
【違反】3点減点
- 4) メンバー全員で演技フロアに入場し、演技中の出入りは禁止
【違反】3点減点
- 5) 手具・大道具は全て演技フロア内に設置すること
※使い終わった手具を投げ、演技フロア外に出るのは構わない
【違反】3点減点
- 6) 演技者以外のフロアへの立ち入り、及び演技者以外が演技に関わる行為は禁止
【例】演技者以外の手具・大道具の設置補助や選手への指示出しなど
【違反】3点減点

4. 演技時間・入退場

- 1) 演技時間は各編成毎に下記の通り
演技時間計測のタイミングは、振りの動き出しまたは音楽の始まりで開始し、最後の振りの動きまたは音楽の終わりで終了とする
入退場は速やかに行うこと
【Mini / Youth編成 及び Pom Prep部門（Mix/Junior編成含む）】： 1分30秒以上**推奨** 2分00秒以内
【Mix / Junior / Senior / Open編成 （Pom Prep部門以外）】： 1分45秒以上**推奨** 2分15秒以内
【Half Time USA/Show-Time USA】： 2分00秒以内

【違反】超過5秒以上は3点減点

5. 人数

- 1) チーム人数は3名からとし、大会によって人数区分（Small/Medium/Large）が適用される部門がある
編成は各大会要項を確認すること
- 2) 演技人数が2名以下の場合、演技は可能だが表彰対象外扱いとなる
【違反】表彰対象外
- 3) 演技人数が申請人数を超過した場合は、失格となる
【違反】失格

6. 衣装/ユニフォーム

- 1) 全ての衣装は安全かつ、演技中に脱げてしまう、落下するなどがないようにすること
- 2) 丈の短い衣装は、タイツ着用が望ましい
- 3) 男性はシャツ（ノースリーブ可）を着用、前面のボタン・ファスナーをしめることが望ましい
- 4) 靴は各部門の演技内容に見合ったものを**両足**に着用し、摩擦や怪我の防止など安全面を十分考慮すること
裸足、靴下のみを着用や床を傷つける靴は禁止 ※コンテンポラリーは裸足可
【違反】3点減点
- 5) 衣装の一部としてのアクセサリは装着可
演技中に外れる、また**肌や床を傷つける**恐れのある金属製などのアクセサリの着用禁止
【違反】3点減点

7. 手具/小道具

- 1) 小道具とは、振り付けの一部として使用されるもので、衣装に付いていないものすべてを指す
- 2) Pom部門では、ポンは衣装の一部としてみなされる 【違反】3点減点
【ポン定義】手で操作できる球状または房状のもの。肌等を傷つけない安全な素材であること。
- 3) 手に持つ、または自立型小道具は全てのカテゴリーで使用不可（Spiritleading部門はこの限りではない） 【違反】3点減点
＜補足＞ 衣装の一部を小道具として使用可であり、体からはずして捨てることも可
- 4) 各チームは演技フロアに汚れを残さないこと（例：スプレーやパウダー、オイルなどの付着、残留） 【違反】3点減点
- 5) 火や有毒ガス、動物など危険を伴う物の使用は厳重に禁止される 【違反】失格

8. 演技の中断について

【演技順の変更】・・・大会当日、演技開始前に演技順を変更すること

【演技の中断】・・・「演技の開始」（音楽、または動作の開始）後に演技が止まること

- 1) 主催者は安全性や大会運営に支障があると判断した場合、演技順の変更および演技を中断する権利を持っている
- 2) 演技順の変更・演技の中断は原因によりそれぞれ下記の扱いとし、すべての判断は主催者が行う

① 不測の事態によるトラブル

音響機材や施設の不備等、チーム起因ではない不測の事態の発声でのトラブル

- a. 予定時間に演技が開始できなかった場合・・・演技順の変更の申請が可能
- b. 演技が中断した、または妨げられた場合・・・再演技の申請が可能

再演技は1回のみとし、予定の内容を1曲通して行うこと

ただし、主催者によって決定された演技中断以降の部分のみが対象となり、演技中断前の審査内容はすべて反映される原則、演技は開始からすべての演技を実施しなくてはならないが、すべての演技が行えなかった場合、そのチームの得点をどのように扱うかについては、主催者によって決定される

② 傷害によるトラブル

演技前・演技中に怪我人が発生した場合のトラブル

- a. 怪我による演技の中断を求めることができるのは以下の者である

- 1) 主催者（トレーナー・大会競技責任者など）
- 2) チーム責任者
- 3) 怪我をした本人

- b. 演技が中断した場合、チームは棄権もしくは再演技が可能

再演技は1回のみとし、予定の内容を1曲通して行うこと

ただし、主催者によって決定された演技中断以降の部分のみが対象となり、演技中断前の審査内容はすべて反映される原則、演技は開始からすべての演技を実施しなくてはならないが、すべての演技が行えなかった場合、そのチームの得点をどのように扱うかについては、主催者によって決定される

- c. 怪我をした選手は、以下のものがなくては演技に戻ることはできない

- 1) 医療関係者（主催者側もしくはチーム側）の承諾
- 2) チーム責任者もしくは怪我をした本人の保護者の承諾

③ チームの責任によるトラブル

道具・衣装・音源の不備やチームの責任によるトラブル

- a. 予定時間に演技が開始できなかった場合・・・棄権、もしくは減点3点が課せられた上で、演技順の変更の申請が可能
- b. 演技が中断した場合・・・棄権、もしくは減点3点が課せられた上で、再演技の申請が可能

再演技の審査は1度審査した内容は破棄され、改めて1曲通しての審査となる

9. 違反について

- 1) 「競技規定」に記載されている事項に違反した場合は、各項目に明記された減点及び表彰対象外または失格の対象となる
- 2) 「演技規定」に記載されている事項に違反した場合は、1項目につき1点の減点が課せられる



演技規定

■Mini/Youth/Mix編成

P.8 Pom Prep部門

P.9 Pom部門・Hip Hop部門・Jazz部門・Spiritleading部門

■Junior/Senior/Open編成

P.10 Pom Prep部門

P.11 Pom部門・Hip Hop部門・Jazz部門・
Contemporary/Lyrical部門・Spiritleading部門

<演技規定> Mini編成/Youth編成/Mix編成 Pom Prep部門 (夏の大会のみ実施)

この部門は技術の習得段階にあるチームに向けた、ダンステクニック・スキルの実施制限を設けるものとする

項 目	内 容	
1.手具・道具	演技中、常にポンを使う必要がある【補足】④ (但し、片方だけ置き、片方は使用している場合はポンを持っているとみなす) ポン以外の手具・小道具・大道具などは使用不可	
2.セーフティ	① 安全性を考慮していない危険な行為、フロアを傷つける恐れのある行為は禁止 ② 怪我等の事情で、硬く曲がらない・表面に凹凸があるギブス・コルセットなどをする際は適切な素材でカバーすること 但し、硬いギブス(石膏やグラスファイバーなどの添木など)や、ウォーキングブーツを装着している出場者は、他の出場者を傷ついたり怪我を負わせる可能性のある振付けに参加することは不可 ③ 手に全体重をあずける動作は、何も持っていない状態で実施しなければならない (例外：前転・後転) ④ 立位・逆さの体勢やターンから、膝・腿・座位・うつぶせ・仰向け・スプリットポジションの姿勢になる場合は、少なくとも片手または片足に先に体重が乗るように行うこと ⑤ ジャンプ・空中から演技フロアへ着地する場合は、少なくとも片足に先に体重が乗るように行うこと 但し、ジャンプ・空中に浮いた際の手の位置が腰レベルより下の場合に限り、手 (片手含む) からの着地が可能。後方への進入は不可。 (ダブルシフトは実施可。シュシュノバのパリエーションは全て禁止)	
3.ダンステクニック /スキルの 実施制限	① テクニック・スキルの連続実施は、下記同一項目内で2連続まで可 (例：「ジャンプ＋リープ」「ターン＋ターン」など) ② 他項目との連続実施は不可 <<連続実施の定義>> 1つ目のテクニック・スキルが終了する前に他のテクニック・スキルにつなげたり、1つ目のテクニック・スキルの終了/着地が、2つ目のスキルの踏み込みとなる場合は連続とみなす。但し、2カウント以上カウントが空く場合は連続とはみなさない。	
	項目	ターン ① ステーションナリターン (※【補足②】) 及びピケターンは、1回転までとし、脚のポジションはパッセ・クッパ・ペンシル・アチチュードのみとする (例：ダブルピリエット不可) ② ステーションナリターン実施の際は、軸足は回転が完成するまで床の上にあること (アクセルターンは実施不可) ③ フェットターンの実施は不可 ④ シェネターンは4カウントまでを1回と計測する
		リープ ジャンプ ① プレパレーション/アプローチから実施が終わるまで回転動作が含まれないこと (例：カリブソなどは不可) ② 踏切りから体のポジション・向き・脚のポジションが変わらないこと (例：スイッチリープなどは不可)
		複合スキル ① 直立姿勢における1回転までの回転動作は実施可 (例：フルターンジャンプ、ソデバスクなど) ② 回転からのロンドジャンプは不可
		その他 ① キック全般は実施可 (ラインワーク・キックラインでのキック連続実施は、下記の連続実施には含まれない) ② レッグホールドは実施可 (持つ位置は不問・脚のポジションを変えることはできない 例：フロントからY字などは不可) ③ イリュージョンは実施可 ④ イタリアンフェットは1周まで実施可 ※実施回数は演技を通して1箇所までとする
4.個人で 実施するもの タンブリングは、 <有効技>に限り 実施できるが必須ではない 実施の際は右記①～③を 遵守すること	① 静止・歩行から実施可 (走り込み・飛び込みからは不可/テクニックスキルとの連続実施は不可) ※上記<連続実施の定義>参照 ② タンブリングは単発・コンビネーションともに実施可 ③ タンブリングをしている選手の上や下を、タンブリングしながら通過・越えることは禁止 ※有効技は片手での実施も可 ※Pomを持った手に全体重をあずける動作は、セーフティ違反になるので注意 (前転・後転は持ったまま実施可) <有効技> 前転、後転、ショルダーロール、側転、チェストロールダウン <禁止技> 上記以外全て ※【補足】③参照	
5.グループ/ペアで 実施するもの リフト & パートナーリング	① 演技フロアに体の一部が触れている状態で、人に体重を預ける・寄りかかるなどは実施可 ② リフトの実施不可 (他者を持ち上げる・下ろす、または他者に持ち上げられる・下ろされる動作) ③ 人に体重をかけて演技フロアから完全に離れる行為 (背中を転がる・人の上に乗るなど) は、下記の条件を満たしている場合のみ実施可だが、 推奨されない a. 補助されず自力で行う事 b. フロアから離れた状態で、動きを止めない事 (人にしがみついたまま、乗ったままの状態などは不可) c. 演技フロアに着地するまで体重をかけている相手と触れ続ける事 ※Pomを持った手に全体重をあずける動作は、セーフティ違反になるので注意	

【補 足】

- ①ポンについて Pom部門、Pom Prep部門では、ポンは衣装の一部としてみなされる
 <ポン定義> 手で操作できる球状または房状のもの。肌等を傷つけない安全な素材であること
- ②ステーションナリターン 軸足が床の表面に固定されて動かないピリエットターン (シェネ、ピケなどはステーションナリターンに含まれない)
- ③タンブリング 有効技以外の全てのアクロバティック・体操的な技
 禁止技について <例> 倒立、立ちブリッジ、頭支持倒立、前方/後方転回、飛び込み前転、ロングド、前方・後方倒立回転跳び、前方・後方宙返り、側方宙返り、ヘッドスプリングなど

<演技規定> Mini編成 / Youth編成 / Mix編成 ※Mix編成は夏の大会のみ実施
Pom部門・Hip Hop部門・Jazz部門・Spiritleading部門

項 目	内 容	
1.手具・道具	Pom部門	演技中、常にポンを使う必要がある【補足】① (但し、片方だけ置き、片方は使用している場合はポンを持っているとみなす) ポン以外の手具・小道具・大道具などは使用不可
	Hip Hop部門 Jazz部門	ポン・手具・小道具・大道具は使用不可 衣装の一部 (ネックレス、ジャケット、帽子などのアイテム) の使用は可 ※ステッキ・傘・扇子などは使用不可 衣装の一部は取り外して使用し、捨てることも可能だが、選手を床から持ち上げるために使用することは不可
	Spiritleading部門	自由とする (大道具の使用も可) 自立する大道具に体重を乗せる事は可 それ以外の小道具、大道具に完全に体重を乗せる事は不可 演技中に使用する全ての手具・大道具は、選手自身でフロア内に運び入れ・設置・撤去できるものでなければならない
2.セーフティ	① 安全性を考慮していない危険な行為、フロアを傷つける恐れのある行為は禁止 ② 怪我等の事情で、硬く曲がらない・表面に凹凸があるギブス・コルセットなどをする際は適切な素材でカバーすること 但し、硬いギブス(石膏やグラスファイバーなどの添木など)や、ウォーキングブーツを装着している出場者は、 他の出場者を傷つけたり怪我を負わせる可能性のある振付けに参加することは不可 ③ 手に全体重をあずける動作は、何も持っていない状態で実施しなければならない (例外：前転・後転) ④ 立位・逆さの体勢やターンから、膝・腿・座位・うつぶせ・仰向け・スプリットポジションの姿勢になる場合は、 少なくとも片手または片足に先に体重が乗るように行うこと ⑤ ジャンプ・空中から演技フロアへ着地する場合は、少なくとも片足に先に体重が乗るように行うこと 但し、ジャンプ・空中に浮いた際の手の位置が腰レベルより下の場合に限り、手 (片手含む) からの着地が可能。後方への進入は不可。 (ダブルシフトは実施可。シュシュノバのパリエーションは全て禁止)	
3.個人で 実施するもの タンブリングは、 <有効技>に限り 実施できるが推奨されない 実施の際は右記①～③を 遵守すること	タンブリング (アクロバティック、体操的な技。フロア上から始まりフロア上で終わる個人で行えるもの) は、 <u>実施できるが必須ではない</u> <有効技>に限り実施可 (以下①～③を遵守しなければならない) ※ 有効技は片手での実施も可 ※ 手具を持った手に全体重をあずける動作は、セーフティ違反になるので注意 (前転・後転は持ったまま実施可) ① 静止・歩行から実施可 (走り込み・飛び込みからは不可 ※例外：ロングダート／テクニックスキルの連続実施 (【補足】②) は不可) ②タンブリングは単発・タンブリング同士のコンビネーションは実施可 ③ タンブリングをしている選手の上や下を、タンブリングしながら通過・越えることは禁止	
	Pom部門 Jazz部門 Spiritleading部門	<有効技> 前転、後転、ショルダーロール、側転、チェストロールダウン、倒立、頭支持倒立、立ちブリッジ、前/後方転回 <禁止技> 上記以外全て ※【補足】③参照
	Hip Hop部門	<有効技> 前転、後転、ショルダーロール、側転、チェストロールダウン、倒立、頭支持倒立、立ちブリッジ、前/後方転回 ロングダート、キップアップ、ストール、マカコ ※【補足】④参照 <禁止技> 上記以外全て ※【補足】③参照
4.グループ/ペアで 実施するもの リフト & パートナーリング	① 演技フロアに体の一部が触れている状態で、人に体重を預ける・寄りかかるなどは実施可 ② リフトの実施不可 (他者を持ち上げる・下ろす、または他者に持ち上げられる・下ろされる動作) ③ 人に体重をかけて演技フロアから完全に離れる行為 (背中を転がる・人の上に乗るなど) は、 下記の条件を満たしている場合のみ実施可だが、 <u>推奨されない</u> a. 補助されず自力で行う事 b. フロアから離れた状態で、動きを止めない事 (人にしがみついたまま、乗ったままの状態などは不可) c. 演技フロアに着地するまで体重をかけている相手と触れ続ける事 ※Pom・手具を持った手に全体重をあずける動作は、セーフティ違反になるので注意	

【補 足】

①ポンについて

Pom部門、Pom Prep部門では、ポンは衣装の一部としてみなされる

<ポン定義> 手で操作できる球状または房状のもの。肌等を傷つけない安全な素材であること

②連続実施の定義

1つ目のテクニク・スキルが終了する前に他のテクニク・スキルにつなげたり、1つ目のテクニク・スキルの終了/着地が、
2つ目のスキルの踏み込みとなる場合は連続とみなす。但し、2カウント以上カウントが空く場合は連続とはみなさない。

③タンブリング

禁止技について

有効技以外の全てのアクロバティック・体操的な技

<例> 飛び込み前転、前方・後方倒立回転跳び、前方・後方宙返り、側方宙返り、ヘッドスプリングなど

④有効技についての
解説

【キップアップ】 仰向けから膝を曲げ、少し後ろに転んでから脚の反動で立ち上がる技 (跳ね起き・ラバーハンドともいう)

【ストール】 両手・片手で体を支えつつ、動きを停止するヒップホップ技 (フリーズ)

【マカコ】 しゃがんだ状態から片手で行う、後方転回 (アラビアンともいう)

<演技規定> Junior編成 Pom Prep部門(夏の大会のみ実施)

この部門は技術の習得段階にあるチームに向けた、ダンステクニック・スキルの実施制限を設けるものとする

項 目	内 容	
1.手具・道具	演技中、常にボンを使う必要がある【補足】① (但し、片方だけ置き、片方は使用している場合はボンを持っているとみなす) ボン以外の手具・小道具・大道具などは使用不可	
2.セーフティ	① 安全性を考慮していない危険な行為、フロアを傷つける恐れのある行為は禁止 ② 怪我等の事情で、硬く曲がらない・表面に凹凸があるギブス・コルセットなどをする際は適切な素材でカバーすること 但し、硬いギブス(石膏やグラスファイバーなどの添木など)や、ウォーキングブーツを装着している出場者は、他の出場者を傷つけたり怪我を負わせる可能性のある振付けに参加することは不可 ③ 手に全体重をあずける動作は、何も持っていない状態で実施しなければならない (例外：前転・後転)	
3.ダンステクニック /スキルの 実施制限	① テクニック・スキルの連続実施は、下記同一項目内に限り3連続まで実施可 (例：「ジャンプ+ジャンプ+リブ」など) ② 他項目との組み合わせは2項目・2連続まで実施可 (例：「ターン+ジャンプ」「リブ+複合スキル」など)	
	<<連続実施の定義>> 1つ目のテクニック・スキルが終了する前に他のテクニック・スキルにつなげたり、1つ目のテクニック・スキルの終了/着地が、2つ目のスキルの踏み込みとなる場合は連続とみなす。但し、2カウント以上カウントが空く場合は連続とはみなさない。	
	項	① ステーションナリーターン (※【補足②】) 及びピケターンは2回転までとし、 脚のポジションはパッセ・クッパ・ペンシル・セカンド (アラセゴン) ・アチチュードのみとする ② ステーションナリーターン実施の際は、軸足は回転が完成するまで床の上にあること (アクセルターンは実施不可) ③ シェネターンは4カウントまでを1回と計測する ④ フェットターンの3周まで可。但しシングルターンで構成されていること ※プレパレーション動作は含めず、動かす脚 (ロンデ) が2番ポジションに開いたところから計測する ⑤ フェットターンは同一項目・他項目ともに連続実施は不可
	目	リブ・ジャンプ ① プレパレーション/アプローチから実施が終わるまで回転動作が含まれないこと (例：カリブソなどは不可) ② 踏切りから体のポジション・向き・脚のポジションが変わらないこと (例：スイッチリブなどは不可)
	目	複合スキル ① 直立姿勢における1回転までの回転動作は実施可 (例：フルターンジャンプ、ソデバスクなど) ② 回転からのロンドジャンプは不可
4.個人で 実施するもの タンブリング & エアリアル ストリートスキル	<ダンススキルとしてのタンブリングは実施できるが、必須ではない。実施する場合は、以下①～⑤を遵守すること。> ① 逆さま姿勢になる場合は、少なくとも1つの手のサポートを必要とする／空中に浮く技は実施不可 ② 空中に浮かない技で、腰が頭を超える回転を含むものは2連続まで実施可 (空中に浮く技は手の支持の有無に関わらず実施不可) ③ 腰が頭を超える体勢での回転を含むタンブリングをしている同士が、お互いの上・下を、通過・超えることは禁止 ④ 膝、腿、背中、肩、座位、うつぶせ、頭で空中から演技フロアへ着地する場合、衝撃を抑えるため片手または片足に先に体重が乗るようにすること ⑤ 脚が体の前方にあるジャンプの状態から、足を後方に動かして腕立て伏せ姿勢でフロアに着地することは不可	
	<ダンスリフト・パートナーリングは実施できるが、推奨されない。実施する場合は、以下①～⑥を遵守すること。> ① 動作を行うダンサーは、演技フロア上に直接触れているダンサーから支えられなければならない ② 最低1名は、常に動作を行うダンサーとお互いが触れている状態にすること ③ 動作を行うダンサーの腰は、頭のレベルの高さを超えてはならない ④ 動作を行うダンサーは、演技フロアから持ち上げられた状態で、腰が頭を超える回転をすることは不可 ⑤ 動作を行うダンサーは、演技フロアから持ち上げられた状態で、逆さま姿勢になってはいけない ⑥ 動作を行うダンサーは、リリースされてはならない	

【補足】

- ①ボンについて Pom部門、Pom Prep部門では、ボンは衣装の一部としてみなされる
 <ボン定義> 手で操作できる球状または房状のもの。肌等を傷つけない安全な素材であること
- ②ステーションナリーターン 軸足が床の表面に固定されて動かないピルエットターン
 (シェネ、ピケなどはステーションナリーターンに含まれない)

<演技規定> Junior/Senior/Open編成

Pom部門 Hip Hop部門 Jazz部門 Contemporary/Lyrical部門 Spiritleading部門

※Junior編成ではContemporary/Lyrical部門の実施はなし

項 目	内 容	
1.手具・道具	Pom部門	演技中、常にポンを使う必要がある【補足】① (但し、片方だけ置き、片方は使用している場合はポンを持っているとみなす) ポン以外の手具・小道具・大道具などは使用不可
	Hip Hop部門 Jazz部門 Contemporary/Lyrical部門	ポン・手具・小道具・大道具は使用不可。 衣装の一部 (ネックレス、ジャケット、帽子などのアイテム) の使用は可。※ステッキ・傘・扇子などは使用不可 衣装の一部は取り外して使用し、捨てることも可能だが、選手を床から持ち上げるために使用することは不可。
	Spiritleading部門	自由とする。自立する大道具に体重を乗せる事は可。それ以外の小道具、大道具に完全に体重を乗せる事は不可 演技中に使用する全ての手具・大道具は、選手自身でフロア内に運び入れ・設置・撤去できるものでなければならない
2.セーフティ	① 安全性を考慮していない危険な行為、フロアを傷つける恐れのある行為は禁止 ② 怪我等の事情で、硬く曲がらない・表面に凹凸があるギブス・コルセットなどをする際は適切な素材でカバーすること 但し、硬いギブス(石膏やグラスファイバーなどの添木など)や、ウォーキングブーツを装着している出場者は、 他の出場者を傷つけたり怪我を負わせる可能性のある振付けに参加することは不可 ③ 手に全体重をあずける動作は、何も持っていない状態で実施しなければならない (例外：前転・後転)	
3.個人で 実施するもの タンブリング & エアリアルストリート スタイルスキル ※ダンススキルとしての タンブリングは実施 できるが必須ではない。 実施する場合は、 右記を遵守すること。	① 逆さま状態になる技 a. 空中に浮かない技は実施可 (例：頭支持倒立) b. 空中に浮く技で、手の支持がないものは実施不可 ② 腰が頭を超える回転を含む技 a. 空中に浮かない技は実施可 b. 空中に浮く技で手の支持がある場合は、2連続まで実施可 c. 空中に浮く技で手の支持がないものは以下の全てを満たす場合は実施可 i. ひねりは最大1回転(360度)まで ii. 手の支持がなく空中で腰が頭を超える回転技との連続実施は不可 iii. 空中に浮く腰が頭を超える回転技との連続は、2回まで実施可 ③ 腰以下の高さからに限り、肩、背中、座位の姿勢で演技フロアへ直接ドロップすることができる (膝、腿、うつ伏せ、頭での着地は不可) ④ 腰が頭を超える回転を含むタンブリングをしている同士が、お互いの上・下を、通過・超えることは禁止 ⑤ Pomや手具、衣装の一部を持った状態で、空中に浮く技から腕立て伏せ姿勢で演技フロアへ着地することは不可	
4.ペア/グループで 実施するもの リフト & パートナーリング ※ダンスリフト・ パートナーリングは 実施できるが 推奨されない 実施する場合は 右記を遵守すること。	① 肩の高さ以下での実施される場合、支えているダンサーは演技フロアに直接触れ続けなくてもよい ② 頭の高さより上での技の実施の場合、最低1名は、常に動作を行うダンサーとお互いが触れている状態にすることは、 以下の条件が満たされていなければならない a. リリース前の技が実施するダンサーと支持するダンサーそれぞれ一人ずつで行われる場合 b. リリース時実施するダンサーが逆さまの状態でないこと、またリリース後、空中にいる間腰の高さが頭より高い状態を通過してはならない c. 実施するダンサーは1名以上の支持するダンサーによってフロアへの着地をキャッチ又はアシストされなければならない。 その際うつ伏せのポジションは不可 d. 支持するダンサーは支持/キャッチ/リリースを補うため、実施の最中は手に何も持たない状態であること ③ 実施するダンサーによる腰が頭を超える回転は、動作を行うダンサーが演技フロアもしくは頭を上にした直立姿勢に戻るまでの間、 動作を行うダンサーと少なくとも1名の支持するダンサーとのコンタクトが保たれること ④ 倒立・逆さまの姿勢は、以下の場合に実施可 a. 動作を行うダンサーが演技フロアに戻るまで、もしくは頭を上にした直立姿勢に戻るまでの間、 動作を行うダンサーと支持するダンサーとのコンタクトが保たれること b. 倒立するダンサーの肩が、直立姿勢での肩の高さを超えるときは、支えるダンサーとは別に、 少なくとも1名が追加スポッターとして加わること (支持するダンサーが3名いる場合は追加は不要)	
5.ペア・グループでの 演技フロアへの ディスマウント ※リリース技は補助しても よいが、必須ではない	① 支えているダンサーから、ジャンプ/リブ/ステップ/ブッシュオフなどで離れる動作は以下を満たす場合に実施可	
	Pom部門 Spiritleading部門	a. 離れた後の最高点において、実施するダンサーの腰が、頭の高さ以下であること b. 離れた後、うつ伏せ/逆さま姿勢を通過してはならない
	Hip Hop部門 Jazz部門 Contemporary/Lyrical部門	a. 離れた後の最高点において、少なくとも動作を行うダンサーの体の一部が頭の高さ以下であること b. 離れた後、うつ伏せ/逆さま姿勢を通過してはならない
	② トスする動作は以下の場合に実施可	
	Pom部門 Spiritleading部門	a. トスの最高点において、トスされるダンサーの腰が、肩の高さ以下であること b. 仰向け/逆さま姿勢の状態からトスされてはいけない c. トスされた後に、うつ伏せ/逆さま姿勢を通過してはならない
	Hip Hop部門 Jazz部門 Contemporary/Lyrical部門	a. トスの最高点において、少なくともトスされるダンサーの体の一部が頭の高さ以下であること b. 仰向け/逆さま姿勢の状態からトスされてもよいが、着地は足からすること c. トスされた後に逆さま姿勢を通過してはならない

【 補 足 】 ①ポンについて

Pom部門、Pom Prep部門では、ポンは衣装の一部としてみなされる

<ポン定義> 手で操作できる球状または房状のもの。肌等を傷つけない安全な素材であること



審査対象外部部門

■ Half-Time USA

■ Show-Time USA

審査対象外部門

1. 出場について

- 1) 出場の際は大会参加指針及び大会参加同意内容を理解し参加するものとする
- 2) Half-Time USA (夏の大会、地区大会) では、クラブチームの団体はクラブチーム実施日にエントリーしてください
- 3) 各大会の詳細に関しては、必ず開催要項をご確認ください

2. ルールについて

- 1) 審査対象外部門は下記の通り2分される
 - ① Half-Time USA (夏の大会、地区大会で実施)
 - ② Show-Time USA (全国選手権大会で実施)
- 2) 上記①、②いずれも、演技内容全般については競技規定 (P3-6) に準ずるものとする
- 3) 審査対象外部門の演技規定については、以下参照

3. 演技規定

<演技規定> ① Half-Time USA (夏の大会、地区大会で実施)

地区大会、及び夏の大会で実施される審査対象外部門 Half-Time USAでは、年齢に関わらず下記に従って実施すること

項 目	内 容
1.手具・道具	自由とするが、演技中に使用する全ての手具・大道具は、選手自身でフロア内に運び入れ・設置・撤去できるものでなければならない
2.構 成	自由とする (但し、以下タンブリング・スタンツ・ダンスリフトの内容は遵守すること)
3.セーフティ	① 安全性を考慮していない危険な行為、フロアを傷つける恐れのある行為は禁止 ② 怪我等の事情で、硬く曲がらない・表面に凹凸があるギブス・コルセットなどをする際は適切な素材でカバーすること 但し、硬いギブス(石膏やグラスファイバーなどの添木など)や、ウォーキングブーツを装着している出場者は、他の出場者を傷つけたり怪我を負わせる可能性のある振付けに参加することは不可 ③ 手に体重をあげる動作は、何も持っていない状態で実施しなければならない (例外：前転・後転) ④ 自立する大道具に体重を乗せる事は可。それ以外の小道具、大道具に完全に体重を乗せる事は不可 ⑤ 立位、逆さの体勢やターンから、膝・腿・座位・うつぶせ・仰向け・スプリットポジションの姿勢になる場合は、少なくとも片手または片足に先に体重が乗るように行うこと ⑥ ジャンプ・空中から演技フロアへ着地する場合は、少なくとも片足に先に体重が乗るように行うこと 但し、ジャンプ・空中に浮いた際の手の位置が腰レベルより下の場合に限り、手 (片手含む) からの着地が可能。後方への進入は不可。(ダブルシフトは実施可。シュシュノバのバリエーションは全て禁止)
4.個人で実施するもの タンブリング <有効技>に限り 実施可だが 必須ではない 実施の際は 右記を遵守すること	① 静止・歩行から実施可 (走り込み・飛び込みからは不可 ※例外ロングート /テクニクススキルとの連続実施は不可) ② タンブリングは単発・コンビネーションともに実施可 ③ タンブリング中の人の上や下を、タンブリングしながら通過するのは禁止 <有効技> 前転、後転、ショルダーロール、側転、チェストロールダウン、倒立、頭支持倒立、立ちブリッジ、前/後方転回、ロングード、ストール、キップアップ、マカコ ※有効技は片手での実施も可 ※手具を持った手に全体重をあげる動作は実施不可 (前転・後転は持ったまま実施可) <禁止技> 上記以外全て ※【補足】①参照
5.グループ/ペアで実施するもの リフト パートナーリング	① 演技フロアに体の一部が触れている状態で、人に体重を預ける・寄りかかるなどは実施可 ② リフトの実施不可 (他者を持ち上げる・下ろす、または他者に持ち上げられる・下ろされる動作) ③ 人に体重をかけて演技フロアから完全に離れる行為 (背中を転がる・人の上に乗るなど) は、下記の条件を満たしている場合のみ実施可だが、推奨されない a. 補助されず自力で行う b. フロアから離れた状態で、動きを止めない事 (人にしがみついたまま、乗ったままの状態などは不可) c. 演技フロアに着地するまで体重をかけている相手と触れ続ける事 ※Pom・手具を持った手に全体重をあげる動作は、セーフティ違反になるので注意

【補足】①タンブリング禁止技

有効技以外の全てのアクロバティック・体操的な技

<例> 前方・後方倒立回転跳び、前方・後方宙返り (伸身含)、飛び込み前転、側方宙返り、ヘッドスプリングなど

<演技規定> ② Show-Time USA (全国選手権大会で実施)

全国選手権大会で実施される審査対象外部門 Show-Time USAに限り、競技部門に則った演技規定とする
メンバーの年齢や演技構成に関しては、ルールブックP4の全ての編成・部門が該当する

◆MEMO◆



主催：一般社団法人Cheer & Dance Education

United Spirit Association, Japan

〒101-0003 東京都千代田区一ツ橋2-6-8 トミビル3 3F

TEL：03-5216-5545 FAX：03-5216-5546 URL：<http://www.usa-j.jp/>